

東京大学 教養学部 推薦合格 / ロンドン大学キングスカレッジ合格

落合 弥知 さん（国立東京学芸大学附属国際中等教育学校出身）

—東大推薦を意識し始めたきっかけは何でしょうか。

高 1 の秋頃、東大推薦入試の募集要項を見る機会がありました。その中で課題論文の執筆の実績や国際バカロレアの認定・語学力が評価されるということを知りました。もともと学芸国際はインターナショナルバカロレア(以下 IB)の制度があり、IB を修了していれば、イギリスの大学に進学する権利を得られます。もともと小学校の頃イギリスに住んでいたこともあり、海外の進学も視野にいれ IB も修了したいと考えていました。東大推薦入試は、得意な英語もまた IB も活かして自分にぴったりの入試方式ではないかと意識するようになりました。

—推薦入試に向けて準備していたことを教えてください。

まずは課題論文というところからです。私の学校は学校自体が研究などを推進するような校風にあつたので低学年のうちから友達同士で興味のある研究に取り組む機会がありました。高 1 まで研究を続けていた研究課題もあつたりし、自分自身研究活動が向いていたりするのかなと考えていました。高 2 から始まる IB のプログラムでは、各科目で研究課題が課せられるのですが、そこでも自分が研究したいトピック、例えばそれは僕の場合「社会の都市問題」だったのですが、そういったテーマに寄せて執筆していました。IB のプログラムの研究課題は全て在学中に執筆した課題論文として東大推薦入試の志願者調書でも記載することができました。

—お茶ゼミで受験対策を始められたきっかけと理由を教えてください。

中 3 の時、高校生になる前に予備校を探そうと決めていました。お茶ゼミは学校の先輩がたくさん通っていて、学校でもよく耳にしていました。もともと帰国生で小学校の時に 2 年間イギリスに行っており、英語はアドバンテージがありました。当時苦手だった数学を早く始めておきたいと思い、お茶ゼミに通うことに決めました。

—お茶ゼミの数学の授業はいかがでしたか。

最初は集団塾の経験がなかったので予備校がどういうものかわからないままのスタートでした。お茶ゼミの授業は一週間の中で学習のサイクルができるようになっていました。お茶ゼミの先生は予習よりも復習に力を入れるようにとおっしゃっていたので、特に復習に力を入れました。毎週の「Weekly テスト」を活用して、一人だと先延ばしにしかねない復習もしっかりやるように心がけました。

—お茶ゼミの「推薦・AO 対策講座」はどのように利用していましたか。

どのように表現すれば自分のことを論理的に表現できるのかということを指導していただきました。マニュアル

化された内容や単純な書き方のステップではなく、それは個人のパーソナリティを加味しながらもひとつのことを掘り下げて書くべきか、または自分の実績を数でもっと押した方がよいのかなど、表現の仕方は入試によって異なるのでそういったところも鑑みて一人ひとりに合わせて指導して下さったのはとても役に立ちました。

—イギリスの大学も受験され合格されていますね。

もともとイギリスに住んでいたこともあり、英語力を生かすことができないかと、東大とイギリスの大学の進学の両方を視野にいれながら対策していました。進学についてはこれからゆっくり考えていきたいです。

—大学に入学してチャレンジしたいことを教えてください。

データの読み込みや、統計を使うことが好きなので、自分の研究テーマである地域問題や社会問題を結び付けて研究をしたいです。経済学や統計学を学びながら都市問題について向き合って世の中の役に立ちたいと思っています。